

7.

感染症に向きあってきた歴史

細菌やウイルスなどの病原体*が、空気や水などの身の回りの環境を通したり、または動物や人との接触を通したりして、人の体に入って増えることを「感染」といい、一定の潜伏期間を経たのち、さまざまな症状を発症することを「感染症」といいます。

*マイコプラズマやクラミジアといった細菌、スピロヘータ、リケッチア、ウイルス、真菌、原虫、寄生虫など

▶ これまでに発生した主な感染症

	ペスト	天然痘	コレラ	梅毒	結核
中世	540年代 ビザンツ帝国とその 周辺で大流行				14世紀以降、都市への人口集中とともにヨーロッパ各地で流行
	1347~52年 ヨーロッパで大流行。 ヨーロッパ全人口の 3分の1以上が死亡			1493年 コロンプスの船員 発症	
15世紀から18世紀	14世紀 世界でパンデミック。 「黒死病」と呼ばれる	1520年 中米のアステカ帝国 で流行		1494年 イタリアの ナポリに進軍したフ ランス軍が感染し撤 退。欧州全体に広がる	
	1663年 オランダで流行 1665~66年 ロンドンで流行	1525~26年 南米のインカ帝国で 流行(~1600年頃ま で先住民人口が9割 減)		1512年 中国より日本にも伝 わる	17世紀 流行の ピーク。18世紀に一 旦衰える
	1680年代 光学顕微鏡による細菌の観察が始まる	1798年 エドワード・ジェン ナーが牛痘による種 痘法を発見	1817年~ 世界的大流行		19世紀 産業革命と ともに再度流行。過 酷な労働環境のもと で働く労働者が感 染
19世紀	1894年 アレクサンドル・イ エルサン、北里柴三 郎、別々にペスト菌を 発見		1822年 日本で初めて発見、 大阪で流行。のちに「文政コレラ」と言われる		1830年頃 ロンドンでは5人に1人が亡くなったといわれている
	1800年代末 細菌学の成立		1826年 2度目の世界的大流行		17世紀~19世紀にかけてヨーロッパと北米の全死亡の20%が結核によるものと推定。「白いペスト」と呼ばれる
20世紀から現代	1899年 神戸港から入港した 船から日本でまん延		1840~50年代 ロンドンで流行		1882年 ローベルト・コッホが結核菌を発見
	1931年電子顕微鏡開発 ワクチンや治療薬、抗生物質の開発が進む		1858年 日本でコレラが流行。 「安政コレラ」と言われ、多くの人が亡くなったとされている		1940年代 結核の特効薬「ストレプトマイシン」を発見
	1948年世界保健機構(WHO)設立		1883年 ローベルト・コッホがコレラ菌を発見		1957年 日本では「結核予防法」の一部改正、ツベルクリン反応検査または予防接種BCGの無料化、医療費公費負担
		1980年 WHOが根絶を宣言	1886年 日本で流行。死者10万人を超える	1893年 ワクチン開発により、コレラ菌を防除	1910年 ドイツのパウエル・エールリヒと秦佐八郎が、ヒ素剤サルバルサンを発見。世界最初の化学療法剤
			1924年以降、医学の発展、防疫体制の強化などにより世界的流行はおこらなくなった	1920年代 抗生物質ペニシリンを発見。1940年代初頭に製剤開発	